令和３年度　国際文化学科 専門教育科目　シラバス

科目名	比較文化論 Comparative Cultural Studies	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（２年後期）	科目区分	講義
担当者	川上　新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	文化の一つである宗教をとりあげ、世界各地で営まれているさまざまな宗教について、比較宗教学の視点から学ぶ。具体的には、学生がさまざまな宗教に関する基礎知識を習得するとともに、世界のさまざまな宗教について、それぞれの特徴、各宗教間の関係が説明できるようになることを目標とする。		
授業概要	最初に比較宗教学という学問の特徴や、信仰としてではなく文化としての宗教の概念について学ぶ。次に、世界各地で見られる主要な宗教の中から、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム、ヒンドゥー教、仏教、儒教、道教、神道をとりあげ、それぞれの特徴について学ぶ。レポートと定期試験では、授業で学んだそれぞれの宗教に関する基礎知識や比較宗教学による見方を習得しているかを問う。		
授業計画	① 文化としての宗教 ② 『旧約聖書』人間観、世界観 ③ ユダヤ教（１） ④ ユダヤ教（２） ⑤ キリスト教（１） ⑥ キリスト教（２） ⑦ イスラーム ⑧ ヒンドゥー教（１） ⑨ ヒンドゥー教（２） ⑩ 仏教（１） ⑪ 仏教（２） ⑫ 儒教 ⑬ 道教 ⑭ 神道 ⑮ 宗教の分類 ⑯ 試験（記述式、持ち込み不可）		
予復習等	【予習】配布されたプリントを整理し、次の時間に使用するプリントの内容を確認する。 【復習】レポートと定期試験では授業の内容を習得しているかを問うので、ノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート５０％、定期試験５０％（授業の３分の１をこえて欠席した場合は評価の対象者とならない）		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	『よくわかる宗教学』／編：櫻井義秀・平藤喜久子／出版・ミネルヴァ書房		

科目名	日本文化論 Japanese Cultural Studies	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（１年前期）	科目区分	講義
担当者	村中　菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義では、日本人の精神文化の特徴を学ぶことで、我々の最も身近にあって一生付いて回る「心」の側面から日本人の特徴を客観的に理解することを目的とする。これによって自己評価を高め、さらに求められるものは何かを考えて行動に移すことで、日々の悩みや困難を克服し、ひとりひとりがよりよい生き方を模索する方法を体得することを到達目標とする。加えて自己理解から他者へのそれへと視野を拡げ、よりよい人間関係の構築につなげられるようになることも同時に到達目標とする。		
授業概要	本講義は、多様な日本文化の側面の中から、日本人の精神文化を取り上げて進めていく。日本人のものの考え方の特徴を文化的側面から自覚することは、今後のよりよい生き方へつながる作業である。ここでは日本人の精神文化の代表的な特徴として挙げられる「もののあはれ」、「無常」、「義理と人情」、「粋」について、主に日本文学の立場から私たちの思考の型（癖）を考えていく。「もののあはれ」については『源氏物語』、「無常」については主に『方上記』および『徒然草』から、「義理と人情」では近松門左衛門の浄瑠璃作品、「粋」では九鬼周造『粋の構造』の考えを基本に近松作品を取り入れ、日本人の精神文化の魅力および改善点を考えていく。		
授業計画	① ガイダンス、日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（１） ② 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（２） ③ 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（３） ④ 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（４） ⑤ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（１） ⑥ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（２） ⑦ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（３） ⑧ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（４） ⑨ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（１） ⑩ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（２） ⑪ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（３） ⑫ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（４） ⑬ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（１） ⑭ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（２） ⑮ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（３） ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】テキストのプリントに目を通しておくこと 【復習】その日に学んだテキストのプリント等を見直し、整理しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度４０％、授業時に書いてもらうメモ２０％、定期試験４０％		
履修条件	なし		
教科書	テキストとしてプリントを配布する		
参考書	適宜プリントを配布する		

科目名	民俗学 Folklore	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年前期）	科目区分	講義
担当者	川上　新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	各地で見られる民俗宗教を学ぶことを通じて、それぞれの地域の人々が伝えてきた精神世界を理解することを目指す。具体的には、学生が民俗宗教に関する基礎知識を習得するとともに、それぞれの地域の人々が伝えてきた精神世界を理解するために民俗宗教研究が提出してきた見方、考え方を理解し、それぞれの事例について民俗宗教研究に基づく見方が説明できるようになることを目標とする。		
授業概要	最初に民俗学、民俗宗教の概念について学ぶ。次に各地で見られる民俗宗教の例として、大学周辺地区（一日市場地区）で行われている祭礼の事例、沖縄伊良部島で行なわれている祭礼と民間宗教者の事例を紹介する。次に、民俗宗教で活動する民間宗教者について、日本と韓国の例を紹介する。さらにキリスト教、仏教、儒教と民俗宗教との関係について学ぶ。レポートと定期試験では、授業で学んだ民俗宗教に関する知識や民俗宗教研究に基づく見方を習得しているかを問う。		
授業計画	① 民俗学について ② 民俗宗教について ③ 大学周辺（一日市場地区）での祭礼（１） ④ 大学周辺（一日市場地区）での祭礼（２） ⑤ 沖縄伊良部島での祭礼 ⑥ 沖縄伊良部島での民間宗教者 ⑦ 民間宗教者と精霊憑依 ⑧ 日本の民間宗教者（１） ⑨ 日本の民間宗教者（２） ⑩ 韓国の民間宗教者（１） ⑪ 韓国の民間宗教者（２） ⑫ キリスト教と民俗宗教 ⑬ 仏教と民俗宗教 ⑭ 儒教と民俗宗教 ⑮ 整理とまとめ ⑯ 試験（記述式、持ち込み不可）		
予復習等	【予習】配布されたプリントを整理し、次の時間に使用するプリントの内容を確認しておく。 【復習】レポートと定期試験では授業の内容を習得しているかを問うので、ノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート５０％、定期試験５０％（授業時数の３分の１をこえて欠席した場合は評価の対象者とならない）		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし		

科目名	アジア文化論 Asian Cultural Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（１年後期）	科目区分	講義
担当者	王　張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義は、学生と共にアジア地域の文化交流における人・物の往来・伝播のルートをたどりながら、異なる国と地域の生活習慣、衣食住、価値観の共通性と異質性を再認識、再発見できることを目的とする。特に漢字文化圏に属する中国、日本、シンガポール、ベトナムなどいくつかの国と地域を中心に、文化の特徴を概説する。アジアの共通性や文化の特殊性を導き出すことによって、異文化交流の大切さと難しさを理解してもらう。		
授業概要	アジアにおけるいくつかの国と地域の文化現象を通して、異文化との交流と文化摩擦の問題について考える。考察は、大きく四つに分けって行う：①外交関係、②経済成長や社会発展に伴う家族変動、③企業文化の現地化、④人の往来で見られるカルチャーショック。それぞれの考察に事例研究も取り入れて、交流の特徴、現状と文化受容を検討する。最後の３回授業でいくつかのグループに分けて、アジアの国々について調べて発表してもらう。グループ発表の準備と発表結果は授業評価の一部として考えている。		
授業計画	① アジアの国々 ② 日中国交正常化でみられる政治摩擦 ③ 日中国交正常化でみられる文化摩擦 ④ 中国、日本、ベトナムって、漢字文化圏？ ⑤ 中国：女書って、なに？ ⑥ 中国：養児防老って、なぜ？ ⑦ 日本：「戦争花嫁」の異文化観 ⑧ 日本：「戦争花嫁」の家族観 ⑨ テーマパークに対する文化観：中国、日本、ベトナム、シンガポールなど ⑩ テーマパークにみられる企業のサービス精神 ⑪ アジアにおける人移動の特徴 ⑫ カルチャーショックでみられる文化の相違 ⑬ グループ発表 ⑭ グループ発表 ⑮ グループ発表 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各回のテーマについて、ネットとかで最新の情報を調べておくこと。 【復習】配布資料を読み、疑問に感じたことを調べたり、教員に聞いたりすること。		
評価方法	出席状況20%、レポート40%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	特にテキストは使わない。授業中に資料などをプリントで配布する		
参考書	授業の中で随時紹介する		

科目名	中国文化論 Chinese Cultural Studies	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（１年前期）	科目区分	講義
担当者	王　張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	中国は世界一の人口を持つ、多民族国家である。本講義は、中国の多様性文化現象から、少数民族、世界遺産、大衆娯楽文化などの側面を焦点にして中国を観察し、中国社会の特徴に触れてもらう。日本と異なる中国社会や文化特徴をを理解し、グロバール化世界で多文化の共存していくことの大切さを理解することを目指す。		
授業概要	中国の少数民族の文化を考察しながら、中国社会の多様性を考察していく。改革開放以降に表れてきた娯楽文化も紹介する。理解を深めるため、ビデオなどの視覚教材を活用し、講義を進めていく。毎回感想文の提出を義務づける。感想文の内容を自主学習課題の成果と見なし、成績評価に反映させる。また、この授業は隔週開講の高大連携授業で、高校生と大学生の交流機会も設けるので、積極的に参加しよう。外部特別教師を招いたり、グループ発表をしてもらったりする予定である。		
授業計画	① 中国って、どんな国？ ② 中国の民族　（漢民族と少数民族） ③ 少数民族の独特な文化現象 ④ 中国の世界遺産 ⑤ 中国の大衆娯楽文化 ⑥ 特別講義（外部の特別教師） ⑦ 中国の祝祭日　（グループ発表） ⑧ 中国の食文化　（グループ発表） ⑨ 定期試験 ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯		
予復習等	【予習】各回のテーマについて、ネットとかで最新の情報を調べておくこと。 【復習】配布資料を読み、疑問に感じたことを調べたり、教員に聞いたりすること。		
評価方法	出席状況20%、レポート40%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	特にテキストは使わない。授業中に資料などをプリントで配布する		
参考書	授業の中で随時紹介する		

科目名	韓国文化論 Korean Cultural Studies	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（１年前期）	科目区分	講義
担当者	川上　新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	朝鮮半島の歴史について理解することを目的とする。具体的には、学生が朝鮮半島の歴史の基礎的知識を習得し、朝鮮半島での歴史の変遷、各時代の特徴、各時代の王朝と中国大陸や日本との関係が説明できるようになることを目標とする。さらには、隣国の歴史を理解することが日本と朝鮮半島との関係について理解を深めることにつながることが期待される。		
授業概要	最初に朝鮮半島の地理の概要について学ぶ。次に、古代から近代まで朝鮮半島の各時代、各王朝の特徴を学ぶ。その際、中国大陸の各王朝や日本との関係を重視する。続いて、日本による植民地支配とその後の南北朝鮮の分断について学ぶ。この授業は隔週で行うので、授業が開講される日に注意すること。全８回の授業であり、回数の少ない授業なので、予習復習に努めることが授業内容を理解するために大切である。		
授業計画	① 地理 ② 古朝鮮と漢四郡 ③ 高句麗と三韓 ④ 統一新羅と渤海 ⑤ 高麗 ⑥ 朝鮮 ⑦ 大韓帝国と日韓併合 ⑧ 大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国 ⑨ 定期試験（記述式、持ち込み不可） ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯		
予復習等	【予習】配布されたプリントを整理し、次の時間に使用するプリントの内容を確認しておく。 【復習】レポートと定期試験では授業の内容を習得しているかを問うので、毎授業後、ノート整理に 努めること。		
評価方法	レポート５０％、定期試験５０％（授業時数の３分の１をこえて欠席した場合は評価の対象者とならない）		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	『朝鮮を知る事典』／著・伊藤亜人他／出版・平凡社		

科目名	ヨーロッパ文化論 European Cultural Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年前期）	科目区分	講義
担当者	松井　隆幸	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	人間の思想のいとなみ・努力に対する尊敬をもってほしい。そのよすがとしてヨーロッパ思想史の基本線を紹介します。受講者は、この授業で扱われた本のうち少なくとも一冊を自分自身で実地に読んでみてほしいと思います。学期末の課題としては、その一冊の感想ないし内容の要約をレポートすることを課することになります。		
授業概要	ヨーロッパ思想史の基本線をギリシア的伝統とヘブライ的伝統という二つの流れの合流・総合という大枠でとらえ、これを理解するための基本的知識を伝達することをめざします。そして、その基本線を、ギリシア神話とヘブライ語聖書というそれぞれのはじまりから２０世紀の破局的経験に対する哲学者アーレントの思想的対決までたどりなおします。一回ごとの授業には１冊か２冊のヨーロッパ思想の古典的著作をとりあげ、その内容を一定の視点から要約紹介することをします。		
授業計画	① ホメロス「イリアス」と「オデュッセイア」　その苛烈な面白さ、その宿命観 ② ギリシア神話　ギリシア人と神々との関係 ③ ギリシア悲劇「オイディプス王」「アンティゴネー」　劇の成立 ④ ソフィストとソクラテス「ソクラテスの弁明」「クリトン」両者のちがい、魂の吟味とし ⑤ プラトン「ゴルギアス」（無知としての悪）「国家」（その神話批判） ⑥ アリストテレス「ニコマコス倫理学」（そのプラトン批判） ⑦ ヘブライ語聖書（１）ヘブライ人の物語（「創世記」「出エジプト記」）一神教の成立 ⑧ ヘブライ語聖書（２）ヘブライ人の物語（「ヨブ記」）神義論 ⑨ イエスと新約聖書（「福音書」）イエスという事件一愛 ⑩ アウグスティヌス「告白」（ギリシア的伝統とヘブライ的伝統との総合） ⑪ デカルト「方法序説」（科学革命と認識論の問い） ⑫ ロックとヒューム「人間知性論」「人性論」（経験論の立場） ⑬ カント「道徳形而上学の基礎づけ」「永遠平和について」（義務論的倫理学の立場） ⑭ ヘーゲル「歴史哲学講義」（歴史哲学という発想） ⑮ アーレント「人間の条件」（全体主義の経験と二つの伝統の総合）		
予復習等	予習は必要ありません。授業でとりあげた本をぜひ手にとって読んでみてください。		
評価方法	レポート１００％		
履修条件	なし		
教科書	『ヨーロッパ思想入門』/著：岩田靖夫/出版：岩波書店		
参考書	授業のなかで紹介します		

科目名	文化交流論 Cultural Interaction	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年後期）【開放科目】	科目区分	講義
担当者	川上　新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	文化交流を文化の接触、文化の受入れととらえて、日本をはじめアジア各地の文化に大きな影響を与えている仏教について理解することを目指す。具体的には、学生が仏教の基礎知識を習得し、仏教の内容について説明できるようになることを目標とする。さらには、仏教の基礎知識を習得することによって日本やアジアの文化に対する理解力を深めることが期待される。		
授業概要	仏教に関する基礎知識を学ぶとともに、文化交流を文化の接触、文化の受入れととらえ、インドで発生した仏教がインド在来の文化からどのような影響を受けたか、また、中国に伝来した仏教がどのように展開したかについても学ぶ。はじめに、仏教が生まれる以前からインドで実践されていたバラモン教について学ぶ。次に、釈迦の生涯、釈迦が説いた教え、釈迦以後に発生した大乗仏教について学ぶ。続いて、中国における仏教の展開として禅、天台教学、華厳教学についてとりあげ、また仏教と儒教との関係についても学ぶ。		
授業計画	① 仏教とは ② バラモン教、ウパニシャッド哲学 ③ 釈迦の生涯 ④ 釈迦の悟りの内容 ⑤ 釈迦の説いた教え ⑥ 苦しみの由来 ⑦ 修行について ⑧ 仏教とバラモン教：輪廻転生と仏教 ⑨ 多くの仏陀、空 ⑩ 唯識、如来像、六波羅蜜 ⑪ 中国での禅の形成 ⑫ 中国での禅の展開 ⑬ 天台教学、華厳教学 ⑭ 浄土信仰、仏教と儒教 ⑮ 整理とまとめ ⑯ 定期試験（記述式、持ち込み不可）		
予復習等	【予習】指定された参考書をよく読んでおくこと。 【復習】レポートと定期試験では授業の内容を習得しているかを問うので、ノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート５０％、定期試験５０％（授業時数の３分の１をこえて欠席した場合は評価の対象者とならない）		
履修条件	なし。		
教科書	なし。		
参考書	『仏教入門』／著・高崎直道／出版・東京大学出版会		

科目名	日本文学論 Japanese Literature	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（１年後期）【開放科目】	科目区分	講義
担当者	村中　菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「日本語」の書きことばによって結実したさまざまな文学作品を、そこに込められた人間の内面を掘り起こすことで広く人間の理解につなげ、実生活を心豊かでよりよいものにするきっかけをつかむことを目的とする。各時代の作品の成立の背景や特徴をゆっくり味わいながら、作者の思いや登場人物の心の動きを考えることで、私たちの心に存在するさまざまな感情に気づくことで、自己および他者を理解する手段としての文学作品の価値に気づいてほしい。		
授業概要	本講義は、上代・中古・中世・近世・近代の各時代の日本文学作品の中から、学生の皆さんに基本的な教養として知っておいてもらいたいものを厳選して取り上げ、その世界に反映された人間のさまざまな心の側面を認識するという目的で構成されている。「難しい」という印象を抱かれがちな日本文学の世界だが、まずは身構えずにその世界を味わってみることで作品に興味を持ち、書店などで気になる作品を手にとってくれる若者が増えることを希望的目標とする。文学作品世界への認識を深め、人の心の動きについて考えることで、実生活において自己も他者も活かせる生き方を見出すきっかけにしてもらえるよう講義を進める。		
授業計画	① ガイダンス、日本最古の和歌集『万葉集』概説 ② 『万葉集』から、和歌とは何かを考える ③ 和歌から物語へ（１）物語文学の流れ―作り物語、歌物語― ④ 和歌から物語へ（２）物語文学の流れ―日記文学、『源氏物語』へ― ⑤ 『源氏物語』概説、登場人物の紹介 ⑥ 『新古今和歌集』の意義、八代集について ⑦ 『新古今和歌集』の表現技巧―本歌取りを中心に― ⑧ 『徒然草』にみられる視点―人間への興味 ⑨ 井原西鶴―俳諧から浮世草子に至る笑いの追求― ⑩ 近松門左衛門―人形浄瑠璃と歌舞伎の脚本家― ⑪ 夏目漱石（１）初期作品の特徴、作品テーマの変化 ⑫ 夏目漱石（２）近代人の苦悩―エゴイズムを中心に ⑬ 夏目漱石（３）近代人の心の救済をめぐって ⑭ 谷崎潤一郎（１）初期作品における女性崇拝 ⑮ 谷崎潤一郎（２）耽美主義と女性崇拝 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】テキストのプリントに目を通しておくこと 【復習】その日に学んだテキストのプリント等を見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度４０％、授業時に書いてもらうメモ２０％、定期試験４０％		
履修条件	なし		
教科書	テキストとしてプリントを配布する		
参考書	適宜プリントを配布する		

科目名	比較文学論 Comparative Literature	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年前期）	科目区分	講義
担当者	村中　菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	唐の玄宗の妃である楊貴妃の物語を扱った、日本の古典文学作品『唐物語』の内容を味わい、そのもととなった中国の古典文学作品の内容と比較することで、何が書かれているか、どのような情報が取り入れられているか（逆に、どのような情報が取り入れられていないか）、またその理由などを理解し、論理的な思考が組み立てられるようになることを目的とする。そこから実生活において、私たちに与えられる多くの情報に対しどのように向き合うべきかを自分なりに判断し、決断できる心を養うことを到達目標とする。		
授業概要	日中の古典文学作品を読み比べる作業から、それぞれの成立の背景や特徴、作品の狙い、作者の意図などを分析し、ものごとの本質を見出すことを目的とした授業である。具体的には中国の故事（お話）を日本語に翻訳した物語集『唐物語』（１２世紀後半成立）に収められた「玄宗皇帝と楊貴妃の語（こと）」をゆっくり購読しながら、そのもととなった中国古典文学作品『長恨歌』・『長恨歌伝』、『楊太真外伝』に描かれた楊貴妃像を比較・分析する。そして「なぜそのような表現となっているのか」を各作者の意図や時代背景などから考える。そのことによって、それぞれの視点から楊貴妃という人物の本質に迫ろうとするものである。		
授業計画	① ガイダンス、『唐物語』の概要 ② 『唐物語』購読（１）楊氏の娘・玉環、玄宗の後宮に召される ③ 楊貴妃の魅力についての比較（１）『長恨歌伝』における描かれ方 ④ 楊貴妃の魅力についての比較（２）『長恨歌伝』の意図 ⑤ 『唐物語』購読（２）玄宗の楊貴妃寵愛、世間からの羨望 ⑥ 楊貴妃の政治性についての比較（１）『長恨歌伝』における描かれ方・意図 ⑦ 楊貴妃の政治性についての比較（２）『楊太真外伝』における描かれ方・意図 ⑧ 楊貴妃の政治性についての比較（３）『唐物語』の意図、全体のまとめ ⑨ 『唐物語』購読（３）寵愛の危機―玉の笛の事件― ⑩ 楊貴妃の奔放さについての比較（１）『楊太真外伝』における描かれ方 ⑪ 楊貴妃の奔放さについての比較（２）『楊太真外伝』の意図 ⑫ 『唐物語』購読（４）長生殿での永遠の愛の誓い ⑬ 『唐物語』購読（５）安禄山の乱起こる、逃避行、楊貴妃殺害 ⑭ 『長恨歌』鑑賞―比較文学的視点から―（１） ⑮ 『長恨歌』鑑賞―比較文学的視点から―（２） ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】テキストのプリントに目を通しておくこと 【復習】その日に学んだテキストのプリント等を見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度４０％、授業時に書いてもらうメモ２０％、定期試験４０％		
履修条件	なし		
教科書	テキストとしてプリントを配布する		
参考書	適宜プリントを配布する		

科目名	国際関係論 International Relations	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（１年後期）	科目区分	講義
担当者	荒木　隆人	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義の目的は国際関係の基本的な理論（リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズム）とウェストファリア体制から冷戦後までの国際関係の歴史を学ぶことである。到達目標としては、ウェストファリア体制から冷戦後の世界までの国際社会の在り方を国際関係の基本的な理論に基づいて理解し、説明ができるようになることである。		
授業概要	本講義では、主として国際関係を考察する上での基本的な理論的視座（リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズム）の理解と、国際関係の歴史の検討を行う。国際関係の歴史では、国際社会の基本的な枠組み（主権国家体制）が成立したウェストファリア体制から、ウィーン体制、第一次世界大戦、第二次世界大戦、冷戦、及び今日の世界情勢までの検討を行う。最終的に国際関係の理論に基づいて国際社会の歴史を検討する視座を養う。		
授業計画	① イントロダクション ② 国際関係の見方（１）リアリズム ③ 国際関係の見方（２）リベラリズム ④ 国際関係の見方（３）コンストラクティビズム ⑤ ウェストファリア体制と主権国家の誕生 ⑥ ナショナリズムと帝国主義 ⑦ 第一次世界大戦 ⑧ 国際連盟の成立 ⑨ 第二次世界大戦 ⑩ 国際連合の成立 ⑪ 冷戦 ⑫ 地域主義の挑戦（１）ＥＵ ⑬ 地域主義の挑戦（２）ＡＳＥＡＮ ⑭ 冷戦後の国際問題（１） ⑮ 冷戦後の国際問題（２） ⑯ まとめ		
予復習等	【予習】講義内で紹介する教科書等で各回の講義で扱う内容について予習をすること 【復習】講義で配布された資料を理解した上で、一層理解を深めるために参考書等で調べること		
評価方法	小課題２０％、期末レポート８０％		
履修条件	なし		
教科書	『国際政治学をつかむ』／著・村田晃嗣ほか／出版：有斐閣、ISBN 978-4641177222		
参考書	参考書は講義内で指示する。		

科目名	国際協力論 International Cooperation	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年前期）	科目区分	講義
担当者	荒木　隆人	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本講義の目的は、国際社会による国際協力の在り方を、開発援助、人権問題、地球環境問題、平和構築の4つの側面から学ぶことである。到達目標としては、途上国の貧困問題、基本的人権の抑圧、地球温暖化、内戦及び地域紛争の防止や紛争後の復興支援の4つの側面において、今日の国際協力の課題について十分に理解し、説明できることである。		
授業概要	現代国際社会では、地球規模で取り組むべき課題が数多くある。中でも、途上国の貧困問題（南北問題と政府開発援助の可能性）、途上国における基本的人権の抑圧（第二次大戦後の国際人権レジームの形成）、地球温暖化に代表される地球環境問題（二酸化炭素排出削減への取り組み等）、内戦及び地域紛争の防止や紛争後の復興支援（国連平和維持活動等）である。それゆえ、本講義では開発援助、人権問題、地球環境問題、平和構築の4つの分野から国際協力の在り方を検討する。		
授業計画	① イントロダクション ② 貧困問題と開発援助（南北問題） ③ 貧困問題と開発援助（政府開発援助） ④ 貧困問題と開発援助（日本のODA） ⑤ 貧困問題と開発援助（ODAの展望） ⑥ 人権問題と国際協力（戦後の人権保護） ⑦ 人権問題と国際協力（冷戦期における人権保護） ⑧ 人権問題と国際協力（冷戦後における人権保護） ⑨ 地球環境問題と国際協力（地球環境問題とは） ⑩ 地球環境問題と国際協力（地球環境レジーム１） ⑪ 地球環境問題と国際協力（地球環境レジーム２） ⑫ 平和構築の国際協力（平和維持） ⑬ 平和構築の国際協力（平和構築） ⑭ 平和構築の国際協力（平和構築と日本の協力） ⑮ まとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】講義内で紹介する参考書等で各回の講義で扱う内容について予習をすること 【復習】講義で配布された資料を理解した上で、一層理解を深めるために参考書等で調べること		
評価方法	出席状況・授業態度２０％、定期試験８０％		
履修条件	なし		
教科書	『国際政治学をつかむ　新版』／著：村田晃嗣ほか／出版：有斐閣。		
参考書	『国際協力―その新しい潮流』／著：下村恭民／出版：有斐閣、その他の参考書は講義内で指示する。		

科目名	異文化コミュニケーション Cross-Cultural Communication	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（２年後期）	科目区分	講義
担当者	荒木　隆人	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本講義の目的は、本学科においてこれまで英語、中国語、韓国語といった言語や英米、ヨーロッパ、アジアの文化を学んできた受講生が、本講義において異文化コミュニケーションの思考と方法を理解した上で、受講生各自が暮らす地域における多文化共生の問題を自ら考え、解決の方法を提示できるようになることである。		
授業概要	本講義では、まず、異文化コミュニケーションの基本概念として、文化やコミュニケーション、多文化主義や間文化主義といった異文化コミュニケーションの重要概念を学ぶ。次に、異文化コミュニケーションの具体的課題として、地域における多文化共生の現状と課題について学ぶ。より具体的には、地域に住む外国人住民に関わる諸問題の存在を知り、それらに対していかなる解決方法が考えられるかを学ぶ。		
授業計画	① はじめに ② 異文化コミュニケーションを学ぶ意義 ③ 文化とコミュニケーション ④ 異文化コミュニケーションの障壁 ⑤ 異文化コミュニケーションの基本概念：自民族中心主義と文化相対主義 ⑥ 異文化コミュニケーションの基本概念：多文化主義（１） ⑦ 異文化コミュニケーションの基本概念：多文化主義（２） ⑧ 異文化コミュニケーションの基本概念：間文化主義（１） ⑨ 異文化コミュニケーションの基本概念：間文化主義（２） ⑩ 異文化コミュニケーションの課題：移民問題と多文化共生（１） ⑪ 異文化コミュニケーションの課題：移民問題と多文化共生（２） ⑫ 異文化コミュニケーションの課題：移民問題と多文化共生（３） ⑬ 異文化コミュニケーションの課題：移民問題と多文化共生（４） ⑭ 異文化コミュニケーションの課題：移民問題と多文化共生（５） ⑮ 異文化コミュニケーションの課題：移民問題と多文化共生（６） ⑯ まとめ		
予復習等	【予習】講義内で紹介する教科書等で各回の講義で扱う内容について予習をすること 【復習】講義で配布された資料を理解した上で、一層理解を深めるために参考書等で調べること		
評価方法	小課題２０％、期末レポート８０％		
履修条件	特になし。		
教科書	『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション：多文化共生と平和構築に向けて』著・石井敏ほか／出版：有斐閣　ISBN　978-4641281332		
参考書	参考書は講義内で指示する。		

科目名	情報社会論 Information Society	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年後期）	科目区分	講義
担当者	金子　美博	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	情報社会におけるさまざまな現状や特徴を知り，そこで起きている問題やその現状の解決策を学び，学生自らもその解決策を考え，情報社会とどのように付き合っていくべきかを学ぶことを目的とする．専門教育科目の「情報・言語コミュニケーション科目」の分野で「情報社会論」を学ぶことにより，学生自らが情報社会の中での行動を見直し，情報社会のトラブルに巻き込まれないようにするためには，どのような行動をすればよいのか考え，行動できるようになることを到達目標とする．		
授業概要	情報技術の著しい進展に伴い，現代社会の生活形態は大きく変化してきている．それは現代の社会システムにおいて，光と影の部分を作り出した．その光の部分とは何か？影の部分とは何か？を具体例を挙げながら解説する．また，私たちのメディアのつきあい方や人間関係のあり方はどうあるべきかを考える．授業では視聴覚教材や近年の新聞記事を用いて，具体的な事例を見ながら現代の社会システムがどのように情報化されているのか，情報化により現代起きている問題点を整理していく．		
授業計画	① 情報社会について ② 情報化社会の特徴（１）-情報社会の変遷 ③ 情報化社会の特徴（２）-マルチメディア化 ④ 暮らしの中の情報化 ⑤ 情報社会の光 -電子商取引の仕組み ⑥ 情報社会の影 -マルチメディア化の問題 ⑦ 情報化による家庭生活の変化 ⑧ 情報利用の向上 -ブロードバンド ⑨ 情報利用向上の要因（１）-ブロードバンド化の現状 ⑩ 情報利用向上の要因（２）-ブロードバンド化の要因 ⑪ 在宅勤務と遠隔教育 ⑫ テレマーケティングの現状 ⑬ 企業・産業の情報化 -販売管理のコンピュータ化 ⑭ 情報倫理（１）-ネットの有害情報とは ⑮ 情報倫理（２）-有害情報の規制 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】前回の講義の最後に指示．その内容に従って新聞やネット，本などで調べておく． 【復習】PPTや板書した内容，配布資料をまとめて，自作ノートを充実させること．		
評価方法	出席状況・授業での取組姿勢・ノート整理５０％，定期試験５０％		
履修条件	なし		
教科書	未定		
参考書	未定		

科目名	カレッジイングリッシュⅠ College English Ⅰ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（１年前期）	科目区分	演習
担当者	澤田　真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本講義の目的は、英語コミュニケーション能力や読解能力を養成するための基礎的な段階として、基本的な英文法や英語表現を学び、リスニング力の強化を目指す。到達目標としては、日常の英会話や様々なビジネスシーンで頻出する基本的な表現の読み、聞き、話し、書くことができることである。		
授業概要	本授業では英語コミュニケーション能力だけでなく、ビジネスシーンでのコミュニケーション能力を養成する基礎的な段階として、頻出する表現を身に付けることをねらいとする。テキストは、『My First TOEIC Test』を使用する。このテキストでの学習を通じて、TOEICに慣れて、スコアアップをはかることはもちろん、英文法、リーディング、ライティングおよびリスニング力も同時に養成することを目指す。		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 1 ③ Unit 2 ④ Unit 3 ⑤ Unit 4 ⑥ Unit 5 ⑦ Unit 6 ⑧ Unit 7 ⑨ Unit 8 ⑩ Unit 9 ⑪ Unit 10 ⑫ Unit 11 ⑬ Unit 12 ⑭ Unit 13 ⑮ Unit 14 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】指定されたテキストの授業範囲を読み、問題を解いておく。 【復習】試験対策として、授業内容の復習に取り組む。		
評価方法	平常点（出席状況、授業態度、対話発表、小テストなど）５０％。定期試験５０％。		
履修条件	学修規定による。		
教科書	『My First TOEIC Test』／著：光冨省吾ほか／出版：朝日出版社		
参考書	授業内に指示する。		

科目名	カレッジイングリッシュⅡ College English Ⅱ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（１年後期）	科目区分	演習
担当者	大塚　辰夫	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	英語コミュニケーション能力を身につけるための一つの手段として、ビジネスで多用される英語表現に習熟し、自らも使える英語の習得に励む。前期に学習したTOEICについての知識を深め、実践的な問題演習を通して、総合的かつ実用的な英語力の向上を図る。各パートの攻略法を含めた受験対策とする。就職活動やその後のビジネスに役立てるためのスコアの取得を目指したい。		
授業概要	本授業では英語コミュニケーション能力のみならず、各種のビジネスシーンに頻出する英語表現を研究し、身につけるように心がける。TOEICにおいてはLISTENINGはREADINGと同程度重要視されるのでこの点に留意したい。日ごろから音声面にも留意し、CDやDVDを視聴したい。合わせて英文読解力の養成にも心がけたい。時事的な表現に関心を持ち、英字新聞等を読むなどの習慣をつけるようにしたい。		
授業計画	① イントロダクション ② Unit 1 Eating Out ③ Unit 2 Travel ④ Unit 3 Amusement ⑤ Unit 4 Meetings ⑥ Unit 5 Personnel ⑦ Unit 6 Shopping ⑧ Unit 7 Advertisement ⑨ Unit 8 Daily Life ⑩ Unit 9 Office Work ⑪ Unit 10 Business ⑫ Unit 11 Traffic ⑬ Unit 12 Finance and Banking ⑭ Unit 13 Media ⑮ Unit 14 Health and Welfare ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】指定されたテキストの授業範囲の問題を解く。【復習】授業内容の復習に取り組む。		
評価方法	平常点（出席状況、授業態度、授業参加度、小テストなど）50%、定期試験50%		
履修条件	学修規定による。		
教科書	『Crossing the TOEIC Bridge』/著：林姿穂ほか/ 出版：朝日出版社		
参考書	授業内に指示する。		

科目名	英会話Ⅲ English Conversation Ⅲ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年前期）	科目区分	演習
担当者	澤田　真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、日常のコミュニケーションのおける様々な場面において頻出する表現を確実に身に付けることである。また、練習問題を加えることで、文法事項も再確認する。さらに語彙やリスニング力の拡充をはかり、総合的な英語力の向上を目指す。大学での学びに必要な総合的英語力を身につける。		
授業概要	授業計画に示されている各ユニットにおいて、重要な語句や会話表現について学習し、リスニング問題に取り組むことで、英語コミュニケーション能力を身につける。さらにテーマに即した英文エッセイを読み、英語の構造及び重要な箇所、難解な箇所の理解をし、文脈にあった正しい理解ができるような読解力を身につける。ペアワークやグループディスカッション、プレゼンテーションを行う。		
授業計画	① イントロダクション ② Unit 1　Travel ③ Unit 2　Jobs and People ④ Unit 3　Getting on the plane ⑤ Unit 4　At the Immigration and Customs ⑥ Unit 5　At the Airport ⑦ Unit 6　Hotel ⑧ Unit 7　Restaurant ⑨ Unit 8　Sightseeing ⑩ Unit 9　Shopping ⑪ Unit 10　Transportation ⑫ Unit 11　Problems and Copmliments ⑬ Traveling in Japan (1) ⑭ Traveling in Japan (2) ⑮ Traveling in Japan (3) ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】指定されたテキストの授業範囲の問題を解いておくこと。 【復習】授業後に、テキストの会話、聞き取り問題、読解問題を復習すること。		
評価方法	平常点（出席状況、授業態度、対話発表、小テストなど）５０％、定期試験５０％。		
履修条件	学修規定による。		
教科書	『ENGLISH for Tourism <Basic>』／著：観光英検センター／出版：三修社		
参考書	授業内に適宜指示する。		

科目名	英会話Ⅳ English Conversation Ⅳ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年後期）	科目区分	演習
担当者	大塚　辰夫	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の目的は日常生活における会話的表現に習熟し、自ら英語を使用する機会を増やし、外国人とのコミュニケーションを円滑に進めることができるようにすることです。場面に応じた会話表現ができることを目指します。練習問題にあたり、文法事項も再確認する。さらに語彙やリスニング力の拡充をはかり、総合的な英語力を身につける。		
授業概要	各ユニットにあるリスニングの空欄を埋め、その後、ペアーを組んで対話練習をします。それぞれの課で習う特有な表現を実際に使えるように修得します。提携表現や語句を使用して各自の伝えたい内容を表現します。さらに各課に例示されている表現を取り入れ、学生が話したい内容をオリジナルの英会話として自由に表現できるよう段階的に練習します。参考として教科書に掲載されているダイアログを読み、その会話を模倣して会話の流れや、やり取りの方法を学びます。		
授業計画	① イントロダクション ② Unit 1 Campus Life ③ Unit 2 Health Care ④ Unit 3 My Favorite Things ⑤ Unit 4 International Travel ⑥ Unit 5 Weather ⑦ Unit 6 Education ⑧ Unit 7 Exploring a New City ⑨ Unit 8 Learning English ⑩ Unit 9 Money ⑪ Unit 10 The Environment ⑫ Unit 11 Clothes ⑬ Unit 12 Buildings and Addresses ⑭ Unit 13 News ⑮ Unit 14 Jobs and Work ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】指定されたテキストの授業範囲の問題を解く。【復習】授業内容の復習に取り組む。		
評価方法	平常点（出席状況、授業態度、授業参加度、小テストなど）50%、定期試験50%		
履修条件	学修規定による。		
教科書	『Listen Up, Talk Back Book 2』/著：James Beanほか / 出版：成美堂		
参考書	授業内に指示する。		

科目名	海外言語・文化演習 Language and Cultural Studies	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（１・２年全期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	海外言語・文化演習（英語圏）（中国語圏）（韓国）を通して、習得した英語や中国語や韓国語の能力を高めて、違う国の文化・習慣などに直接触れるによって、学生の視野を広げることを目指す。		
授業概要	海外言語・文化演習では、海外の研修校においてネイティブ・スピーカーの現地教員による言語及び文化の授業を受けるとともに、現地学生との交流活動も行う。世界遺産や博物館などの見学、ホームステイーも用意してある。海外滞在時間は８日～１０日前後。帰国後、研修成果として課題提出が義務にする。		
授業計画	① 出発前オリエンテーションの実施（３回） ② 現地研修校における語学・文化研修 ③ 帰国後、課題提出		
予復習等	【予習】研修先の国や、大学について調べておく。		
評価方法	現地研修の参加５０％、課題提出５０％による総合評価。		
履修条件	なし。		
教科書	なし。		
参考書			

科目名	初級中国語Ⅰ Basic Chinese Ⅰ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（１年前期）	科目区分	演習
担当者	王　張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業は中国語の初心者向きの授業である。中国語の発音や基礎文法に慣れることを目指す。中国語の発音は日本語と違って、独特な声調があるため、まずピンインや声調をしっかり練習し、中国語の発音に慣れるように頑張ってほしい。中国語の発音、基礎的な文法知識を身につけながら、中国の文化や言葉表現の習慣に触れていく。		
授業概要	【担当者の実務経験：中国企業等での通訳や翻訳、日中企業間での提携業務に従事した経験あり】実務経験に基づいて、受講者が中国語の習得に困難を感じると考えられる点には時間をとって説明する。 テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答などをする。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習をする。毎回、前回の授業を復習する意味で、最初の時間で小テストを行う。小テストの準備と結果も授業評価の一部にするので、予習と復習が常にしてほしい。前期最後の授業で一人ずつ中国語で発表してもらう会を開くする予定である。間違いを恐れず積極的に授業に参加しよう。		
授業計画	① 単母音、複合母音 ② 子音、声調 ③ 変調の規則 ④ 第1課　お名前は？ ⑤ 第2課　これは私のパソコンです。 ⑥ 第3課　ここは寒いです。 ⑦ 第4課　７時に起きます。 ⑧ 第5課　学校まで遠いです。 ⑨ 第6課　何コマがありますか。 ⑩ 第7課　お幾つですか。 ⑪ 第8課　図書館で勉強します。 ⑫ 第9課　どこへ行きましたか。 ⑬ 第10課　パンを食べたいです。 ⑭ 復習 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。 【復習】前回習った内容を整理して、毎回の小テスト準備をしておくこと。		
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	『楽しく学ぼう　やさしい中国語　（基礎編）』郁文堂出版社。著者：張慧娟、王武雲、朱藝　2,500＋税		
参考書	授業中随時紹介する		

科目名	初級中国語Ⅱ Basic ChineseⅡ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（１年後期）	科目区分	演習
担当者	王　張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業は中国語の初心者向きの授業である。中国語の発音や基礎文法に慣れることを目指す。中国語の発音は日本語と違って、独特な声調があるため、まずピンインや声調をしっかり練習し、中国語の発音に慣れるように頑張ってほしい。中国語の発音、基礎的な文法知識を身につけながら、中国の文化や言葉表現の習慣に触れていく。		
授業概要	【担当者の実務経験：中国企業等での通訳や翻訳、日中企業間での提携業務に従事した経験あり】実務経験に基づいて、受講者が中国語の習得に困難を感じると考えられる点には時間をとって説明する。 テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答などをする。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習をする。毎回、前回の授業を復習する意味で、最初の時間で小テストを行う。小テストの準備と結果も授業評価の一部にするので、予習と復習が常にしてほしい。前期と同じように、最後の授業で一人ずつ中国語で発表してもらう会を開くする予定である。間違いを恐れず積極的に授業に参加しよう。		
授業計画	① 前期の復習 ② 第11課　母より背が高いです。 ③ 第12課　中国へ行ったことがあります。 ④ 第13課　手紙を書いています。 ⑤ 第14課　いつ来たのですか。 ⑥ 第15課　英語ができます。 ⑦ 第16課　15課を学び終えました。 ⑧ 第17課　母が送ってくれました。 ⑨ 第18課　中国語が聞いて分かります。 ⑩ 第19課　走るのが速いです。 ⑪ 第20課　彼はフランス語を教えています。 ⑫ 第21課　本をたくさん読んでください。 ⑬ 第22課　中国へ帰ります。 ⑭ 復習 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。 【復習】前回習った内容を整理して、毎回の小テスト準備をしておくこと。		
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、定期試験40%による総合評価。		
履修条件	なし		
教科書	前期使った教科書の後半を引き続き使用する。		
参考書	授業で随時紹介する。		

科目名	中級中国語Ⅰ Intermediate ChineseⅠ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年前期）	科目区分	演習
担当者	鄭　躍慶	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	中国文化を題材とした各本文を正しく綺麗に読めることをめざし、その文章に出てくる基本単語、熟語、文法の要点など留意しながら読み、書き、暗記することによって、中国語の理解力を高めていく。また中国文化を紹介することによって、中国語や中国の社会に関する理解をさらに深めていくことは本講義の目的と到達目標である。更に、学生たちが中国語に対して、興味・関心を持ち、学習の意欲を持つように促す。		
授業概要	本授業は正しい発音で日常会話ができることを目標する。授業方法は講義を中心としながら、個人指導も同時に行う。具体的に文法、本文などの解釈の後、個別に発音のチェック及び練習問題などを通じて授業を行う。二回一課のペースで進めていく予定である。基本表現を繰り返す練習することによって身につけて、コミュニケーション能力を高めていく。そして、問題練習を通じて学習内容を定着させる、しかも視聴覚資料を使って、中国や中国文化に関する理解を深める。		
授業計画	① ガイダンス ② 第一課　首都北京 ③ 第一課　練習 ④ 第二課　民族と気候 ⑤ 第二課　練習 ⑥ 第三課　人口 ⑦ 第三課　練習 ⑧ 第四課　方言 ⑨ 第四課　練習 ⑩ 第五課　泰山 ⑪ 第五課　練習 ⑫ 第六課　祝祭日 ⑬ 第六課　練習 ⑭ 中国語の発表会 ⑮ 復習 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】授業前は単語，文法、本文を予習する。 【復習】授業後に習った内容を復習することを少なくとも一時間程度に行うこと。		
評価方法	授業への参加状況：授業の態度２０％、小テスト２０％、定期試験６０％		
履修条件	なし		
教科書	【楽しく学ぼう　やさしい中国語（講読編）】郁文堂　著者：王武曇　張慧娟　朱藝（２６００＋税）		
参考書	授業の中で随時紹介する。		

科目名	中級中国語Ⅱ Intermediate ChineseⅡ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年後期）	科目区分	演習
担当者	王　武云	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	中国文化を題材とした各本文を勉強して、正確できれいな中国語の発音を覚え、中国語の読む、聞く、話す、書くなどの技能を学び、中級レベル以上の中国語能力を身につける。音声、映像などを利用して、できるだけ多くの現代中国を知り、中国語と中国文化に関する理解を深めていく。本講座は、学生が本文で学習した語彙、文法の要点、いろいろな場面の表現を中国語で聞いて理解できる、自分で使える、ことを目指すものとする。		
授業概要	授業では、単語、本文の正しい読み方すなわち発音の確認と、基本的文法の学習、あわせて実際の場面を想定した説明、例文の提示、練習を行う。また、勉強する中で学生が本文中の主な文法を理解するだけではなく、今まで習った単語と組み合わせて応用できる力を養うことも目指す。外国語教育の観点からは、学生が中国語学習を通して、その表現、言い方の日本語との違いを考察し、言語表現に表れる文化的特徴にも学生の興味を促すことも目指す。		
授業計画	① 前期の内容の復習 ② 第七課　飲食文化 ③ 練習 ④ 第八課　薬膳 ⑤ 練習 ⑥ 第九課　体育健身運動 ⑦ 練習 ⑧ 第十課　動物 ⑨ 練習 ⑩ 第十一課　旗袍 ⑪ 練習 ⑫ 第十二課　大学 ⑬ 練習 ⑭ 中国語の歌 ⑮ 復習 ⑯ 定期試験		
予復習等	前回の授業で指定した教科書の内容を事前に読んでおくこと。次回の教科書範囲を予習し、新出単語、新出語句、慣用表現、構文を調べておくこと。		
評価方法	出席状況３０％、小テスト20%、試験５０％による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	前期使った教科書の後半を引き続き使用する		
参考書	授業の中で随時紹介する		

科目名	応用中国語Ⅰ Practical ChineseⅠ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年前期）	科目区分	演習
担当者	邢　桂芝	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	中国語検定資格（HSK）を取得するための授業です。主にHSK資格3級、4級の取得をサポートします。中国語の基本発音、基礎知識を身につけることができるだけでなく、受講者のレベルに応じ、聞き取り・読解・作文の3つの技能を訓練する。また、過去問題の出題パターンと傾向に基づき、有効な対策を講じて、学習効率を高める。更に、学生たちが中国語に対して、興味･関心を持ち、学習の意欲を持つように促す。		
授業概要	【担当者の実務経験：通訳ガイド、国際コミュニケーション、ビジネス通訳、製造業の現場通訳をしたことがあり、現在大学非常勤講師として勤めている】本授業は、聞き取りの練習、語彙表現の復習など、リスニングと筆記の過去問題を解いてもらいながら進めていくことにする。しかも、過去問題の分析、既出語彙、文型のまとめ、練習問題および模擬試験、作文を練習する。 受講生のニーズに合わせて、読む練習、文法の説明、聴く練習を通して、受講生の中国語のレベルを高める。		
授業計画	① ガイダンス　授業の内容、進み方、評価方法を説明する。 ② 中国語検定試験4級の文法１：例文で説明し、穴埋めの問題タイプを練習する。 ③ 中国語検定試験4級の文法２：例文で説明し、語順並べ替え問題タイプを練習する。 ④ 中国語検定試験4級の文法３：例文で説明し、和訳問題タイプを練習する。 ⑤ 中国語検定試験4級の語彙：正しいピンイン表記を練習する。 ⑥ 中国語検定試験4級のリスニング１：単音節単語と二音節単語のピンイン表記を練習する。 ⑦ 中国語検定試験4級のリスニング２：日本語の語彙を中国語で言い表すのを練習する。 ⑧ 中国語検定試験4級のリスニング３：日本語の数字、時間を中国語での表現を練習する。 ⑨ 中国語検定試験4級のリスニング４：長文を練習する。 ⑩ 中国語検定試験4級のチャレンジ１：過去試験問題で模擬試験を実施する（リスニング） ⑪ 中国語検定試験4級のチャレンジ２：過去試験問題で模擬試験を実施する。（筆記問題） ⑫ 中国語検定試験３級の文法：例文で中国語の比較、連動、補語などを勉強する。 ⑬ 中国語検定試験３級の語彙：二音節語彙を音読み、ピンイン表記を練習する。 ⑭ 中国語検定試験３級の読解：文章を読み、筆記問題を練習する。 ⑮ 中国語発表　《我的中国朋友》（「私の中国の友人」） ⑯ 定期試験		
予復習等	授業前は予習し、授業後に復習することを少なくとも1時間程度に行うこと。		
評価方法	授業への参加状況、授業の態度20%、小テスト40%,期末試験40%による総合に評価する。		
履修条件	なし		
教科書	毎回学習資料を配る。		
参考書	授業の中で随時紹介する		

科目名	応用中国語Ⅱ Practical ChineseⅡ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年後期）	科目区分	演習
担当者	王　武云	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	学生の中国語を使って自分の意志を表現したい、もっと中国の文化などに触れたい、中国語検定を受けてみたいという要望に応えて、中国語検定試験の最近の問題を資料として使用する。今まで説明を聞いてもあまり理解できなかった問題を解けることによって、基礎中国語、中国語の応用力の向上を図る。既習の中国語力を生かして、中国語検定試験合格に臨むことを主要な到達目標とした授業構成のクラスとする。		
授業概要	中国語検定受験目標を志す学生を対象に、今までの検定試験の傾向とその対策を最新の試験問題の演習、説明、復習などを徹底して繰り返すことにより、試験のパターに慣れること、今まで解けなかった問題をより分かり易く、丁寧に解説する。出やすい問題を確実に点数に結び付けられるよう、検定試験合格により照準を合わせた授業内容を目指す。必然的に中国語の基礎力、ヒヤリング力などの総合応用力の向上が期待される。		
授業計画	① 前期内容の復習 ② 中検対策三級文法と練習問題 ③ 三級筆記問題 ④ 同上 ⑤ 同上 ⑥ 同上 ⑦ 同上 ⑧ 同上 ⑨ 三級リスニング問題 ⑩ 同上 ⑪ 同上 ⑫ 同上 ⑬ 同上 ⑭ 総合復習 ⑮ 総合復習 ⑯ 定期試験		
予復習等	前回の授業で指定した資料の該当ページを事前に読んでおくこと。次回の授業範囲を復習し、新出単語や語句、慣用表現、構文を調べておくこと。授業終了時に示す課題について、次回の授業までによく準備すること。		
評価方法	出席状況３０％、小テスト20%、試験５０％による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	プリントを配布する		
参考書	授業の中で随時紹介する		

科目名	初級中国語会話Ⅰ Basic Chinese ConversationⅠ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（１年前期）	科目区分	演習
担当者	王　武云	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	初心者向きの授業である。発音を中心にして中国語を習っていく。まずピンインや中国語特有の声調をしっかり勉強して、中国語の発音に慣れるように練習する。ピンインを見て上手に読めること、正しい発音ができることを目的にする。加えて、中国の文化や中国語の特徴などについて紹介し、初級中国語としての「読む、書く、聞く、話す」の四つの基本スキルが備わっていることを目指す。		
授業概要	テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答などをする。1回1課のペースで授業を進めていく。初級段階で必要な基本文型や語句を学び、自分の意思を中国語で表現するためのテクニックを磨く。毎回授業の最初15分ぐらい小テストを行う。小テストの準備と結果も授業評価の一部にする。また、習った内容を基にして中国語の発表会を開く予定である。		
授業計画	① 単母音、複合母音 ② 子音、声調 ③ 変調の規則 ④ ピンインの練習 ⑤ 第1課　私は学生です。 ⑥ 第2課　今日は暑いです。 ⑦ 第3課　今日は何曜日ですか。 ⑧ 第4課　今どこにいますか。 ⑨ 第5課　昼ご飯は何を食べたいですか。 ⑩ 第6課　昨日何を買いましたか。 ⑪ 第7課　今年は何歳ですか。 ⑫ 第8課　あなたの家はここから遠いですか。 ⑬ 第9課　今何をしていますか。 ⑭ 復習 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】授業前習う予定の内容を目を通して、その説明を理解しておくこと。 【復習】小テスト準備をしておくこと。		
評価方法	出席状況２０％、小テスト４０％、小テスト２０％、定期試験４０％による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	『１・２・３の中国語』郁文堂出版社。著者：王武雲、朱藝、林愛華、李徳林　2,500+税		
参考書	授業中随時紹介する		

科目名	初級中国語会話Ⅱ Basic Chinese Conversation Ⅱ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（１年後期）	科目区分	演習
担当者	王　武云	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	初級者向きの授業である。発音を中心にして中国語を習っていく。まずピンインや中国語の特有の声調をしっかり勉強して、中国語の発音に慣れるように練習する。ピンインを見て上手に読めること、正しい発音ができることを目的にする。加えて、中国の文化や中国語の特徴などについて紹介し、初級中国語としての『読む、書く、聞く、話す』の四つの基本スキルが備わっていることを目指す。		
授業概要	テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答などをする。1回1課のペースで授業を進めていく。初級段階で必要な基本文型や語句を学び、自分の意思を中国語で表現するためのテクニックを磨く。毎回授業の最初15分ぐらい小テストを行う。小テストの準備と結果も授業評価の一部にする。前期と同じように、中国語の発表会を開く予定である。		
授業計画	① 前期の復習 ② 第10課　これはだれが作ったケーキですか。 ③ 第11課　テニスをやることができますか。 ④ 第12課　もうすぐ夏休みです。 ⑤ 第13課　私が作った餃子を食べてみてください。 ⑥ 第14課　彼らは今日何をしに来ましたか。 ⑦ 第15課　どなたがあなたたちに英語を教えていますか。 ⑧ 第16課　週末に旅行に行きましょう。 ⑨ 第17課　ますます暖かくなりました。 ⑩ 第18課　雨に濡れて頭が痛いです。 ⑪ 第19課　小説を読むと、眠くなります。 ⑫ 第20課　もう一度言ってください。 ⑬ 第21課　晴れるなら、山登りに行きましょう。 ⑭ 復習 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】授業前習う予定の内容を目を通して、その説明を理解しておくこと。 【復習】小テスト準備をしておくこと。		
評価方法	出席状況２０％、小テスト４０％、定期試験４０％による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	前期使った教科書の後半を引き続き使用する		
参考書	授業で随時紹介する		

科目名	中級中国語会話Ⅰ Intermediate Chinese Conversation Ⅰ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年前期）	科目区分	演習
担当者	王　張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	この授業は、1年生で習った中国語の発音、基礎文法知識を復習しながら、簡単な会話とヒヤリング能力を身につけることを目指す。中国語の特徴である声調を練習し、単語や短文を正しく言えるように訓練する。会話の繰り返す練習を通して、聞いて理解できることと簡単な中国語会話ができることを目指す。		
授業概要	【担当者の実務経験：中国企業等での通訳や翻訳、日中企業間での提携業務に従事した経験あり】実務経験に基づいて、受講者が中国語の習得に困難を感じると考えられる点には時間をとって説明する。 テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答などをする。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習をする。毎回、前回の授業を復習する意味で、授業の最初15分ぐらい小テストを行う。小テストの準備と結果も授業評価の一部と考えている。基本的に、本文の会話を暗唱してもらう。教科書の内容以外に中国語で会話を作ったり、発表したりして、練習する予定である。中国語の歌も挑戦してもらう。		
授業計画	① 発音の復習（第1課～第3課） ② 第4課　你贵姓？ ③ 文法と練習 ④ 第５課　你去哪儿？ ⑤ 文法と練習 ⑥ 第6課　我想喝普洱茶。 ⑦ 文法と練習 ⑧ 第7課　你喜欢什么？ ⑨ 文法と練習 ⑩ 第8課　中国队太厉害了！ ⑪ 文法と練習 ⑫ 復習 ⑬ 中国語の歌 ⑭ 会話作成の練習 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。 【復習】前回習った内容を整理して、毎回の小テスト準備をしておくこと。		
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、定期試験40%による総合評価。		
履修条件	なし		
教科書	『新・跟我学漢語』あるむ出版社。著者：朱新建・魯雪な・李智基　(2,500円＋税)		
参考書	授業で随時紹介する		

科目名	中級中国語会話Ⅱ Intermediate Chinese Conversation Ⅱ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年後期）	科目区分	演習
担当者	王　張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	この授業は、1年生で習った中国語の発音、基礎文法知識を復習しながら、簡単な会話とヒヤリング能力を身につけることを目指す。中国語の特徴である声調を練習し、単語や短文を正しく言えるように訓練する。会話の繰り返す練習を通して、聞いて理解できることと簡単な中国語会話ができることを目指す。		
授業概要	【担当者の実務経験：中国企業等での通訳や翻訳、日中企業間での提携業務に従事した経験あり】実務経験に基づいて、受講者が中国語の習得に困難を感じると考えられる点には時間をとって説明する。 テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答などをする。前期の会話練習に加えて、簡単な中国語の作文練習をする予定である。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習をする。毎回、前回の授業を復習する意味で、授業の最初15分ぐらい小テストを行う。小テストの準備と結果も授業評価の一部と考えている。基本的に、本文の会話を暗唱してもらう。簡単な中国語で作文し、発表会で発表する機会が予定されている。		
授業計画	① 前期の復習 ② 第２課　中国方言多，民族也多。 ③ 文法と練習 ④ 第３課　坐地铁去吧 ⑤ 文法と練習 ⑥ 第４課　用手机上网查查。 ⑦ 文法と練習 ⑧ 第５課　我也想去锻炼锻炼。 ⑨ 文法と練習 ⑩ 第６課　你弹的古筝太好听了！ ⑪ 文法と練習 ⑫ 第７課　学习中文写作 ⑬ 文法と練習 ⑭ 復習 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。 【復習】前回習った内容を整理して、毎回の小テスト準備をしておくこと。		
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	前期使った教科書の後半を引き続き使用する		
参考書	授業で随時紹介する		

科目名	韓国語（入門Ⅰ） Korean（Basic Ⅰ）	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（１年前期）	科目区分	演習
担当者	金　昭鋏	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	ハングルを習得し、旅行など実際の場面で役に立つ表現を身に付ける。実践的な会話能力を身に付け、テキストの読解を通して語彙力、表現能力を高めていく。「読む、書く、聴く、話す」の四技能をバランスよく伸ばし、コミュニケーション能力を高めることを目的とする。到達目標としては、ハングル能力検定試験５級合格程度の韓国語能力を身につけることである。		
授業概要	【担当者の実務経験：公的機関で通訳･翻訳および日韓交流業務に従事した経験あり。】実務経験に基づき、受講者が日本語と韓国語の微妙な違いや、言語にかかわる韓国文化についても理解できるように授業を進める。前半は韓国語の文字と基礎文法を学ぶ（①～⑧）。韓国語の文字が母音と子音の組み合わせであることを理解し、その仕組みと発音の規則を覚えながら、単語を使った簡単なミニ会話練習をする。後半は実際のコニュニケーションの場面を想定した会話練習（⑨～⑮）を行う。具体的には、自己紹介の仕方（⑨⑩）、断定の丁寧表現（⑪）、打ち消し（⑫）、相手への質問（⑬）、動詞の丁寧表現「합니다体」（⑭⑮）という会話の基礎となる文型を覚え、コミュニケーション能力を高めていく。また、言語学習だけでなく、ビデオ教材の視聴を通して、言語表現の背後にある韓国の文化に対する理解を深めていく。		
授業計画	ハングルのしくみ及び母音５つ、子音４つ 基本母音10個、基本母音と子音４つの組み合わせ 子音（５つ）、日本の地名 合成母音１（４つ）、パッチム１（４つ）、連音化１ 激音（５つ）、合成母音２（２つ）、日本語のハングル表記 パッチム２(３つ）、連音化２、合成母音3(5つ) 激音化、濃音（５つ） パッチム(3)、濃音化、漢数詞 ～は～です（１）「私の名前は天野ひかりです」 ～は～です（２）「私の趣味は旅行です」 ～ですか「これはスキヤキですか？」 ～ではありません「スキヤキではありません」 ～が「ここが昌徳宮です」 ～は何ですか？「宮は何ですか」 復習 定期試験		
予復習等	【予習】各課ごとに新出語彙をあらかじめ予習しておくこと。 【復習】毎回小テストがあるので必ず復習しておくこと。		
評価方法	課題提出・受講態度３０％、小テスト３０％、定期試験４０％		
履修条件	なし。		
教科書	『ひかりとシフのどきどき韓国語』／著：李正子/金昭鋏／出版：朝日出版社		
参考書	『ハングルの誕生』／著： 野間秀樹／出版：平凡社新書		

科目名	韓国語（入門Ⅱ） Korean（Basic Ⅱ）	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（１年後期）	科目区分	演習
担当者	金　昭鋏	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	学生が韓国語の運用に必要な知識と技能の基本を学習するとともに、日本語および日本文化との対比の観点から隣国韓国に対する理解を深めることが目的である。また実践的な会話能力を身に付け、テキストの読解を通して語彙力、表現能力を高めていきます。「読む、書く、聴く、話す」の四技能をバランスよく伸ばし、コミュニケーション能力を高めることによって、言語にとどまらず、隣国の文化に対する理解を深めることを目標とします。 到達目標は300語程度の基本語彙、20項目程度の文法事項を身に付ける。同時に、ハングル能力検定試験４級合格程度の韓国語能力を身に付けることである。		
授業概要	授業概要としては、簡単な韓国語文の組み立て方、使い方について学習する。外国語の学習は知識にとどまるのではなく使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、実践的な語学力の基礎作りを目指す。□		
授業計画	①　１回　前期の復習 ②　２回　第4課（１）　１）～に、２）ハムニダ体①肯定文 ③　３回　第4課（２）　１）ハムニダ体①疑問文、２）～を ④　４回　第３、４課まとめテストと第５課（１）　１）ハムニダ体② ⑤　５回　第５課（２）　１）～たい（願望）、２）～で ⑥　６回　第６課（１）　１）～する（意志）、２）～のために（目的） ⑦　７回　第６課（２）　１）形容詞、２）～だが（逆説） ⑧　８回　第５、６課まとめテストと第７課（１）　１）ヘヨ体① ⑨　９回　第７課（２）　１）名詞＋です、２）～から（時間） ⑩　１０回　第８課（１）　１）ヘヨ体② ⑪　１１回　第８課（２）　１）～や（羅列）、２）否定形 ⑫　１２回　第７、８課まとめテストと第９課（１）１）過去形①、２）～ので（理由） ⑬　１３回　第９課（２）１）～て（並列）、第１０課（１）１）～しに（行く・来る）（目 ⑭　１４回　第１０課（２）１）～れば（仮定）、２）～しようと思う（計画） ⑮　１５回　まとめ及び復習 ⑯　定期試験		
予復習等	【予習】各課ごとに新出語彙をあらかじめ予習しておくこと。 【復習】２課毎にまとめテストがあるので必ず復習しておくこと。		
評価方法	課題提出・受講態度４０％、まとめテスト３０％、定期試験３０％		
履修条件	なし		
教科書	『ひかりとシフのどきどき韓国語』／著：李正子/金昭鋏／出版：朝日出版社		
参考書	『ハングルの誕生』／著：　野間秀樹／出版：平凡社新書		

科目名	韓国語（会話Ⅰ） Korean　（ConversationⅠ）	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年前期）	科目区分	演習
担当者	川上　新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」、「韓国語（文法・読解Ⅰ）」の学習の上に、韓国語の基本的な文法事項のさらなる習得と、韓国語による基本的な表現がさらに理解できるようになることを目指す。具体的には、学生が韓国語の基本的な表現を覚え、自ら発話することができ、また他者が発話した語や文を聞き取り、書き取ることができるようになることを目標とする。他者が発話した韓国語を正確に書き取ることができるかが評価の対象になる。		
授業概要	【担当者の実務経験：在外公館で翻訳、通訳の経験あり。】配布するプリントの学習内容にしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。韓国語の文章をパソコンのワードで作成する練習の時間も設ける予定である。受講者には発話してもらったり、質問に答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。		
授業計画	①　いくらですか。～してください（１）。～してさしあげます。 ②　何をお探しですか。～は如何ですか。（場所）～で、～から、～に。 ③　～して～（１）。（場所）～へ、（手段）～で。（場所）～まで。 ④　（理由）～なので（１）。～ぐらい。 ⑤　（場所、時間）～から～まで。ㄹ不規則変化 ⑥　（人）～に。～ですね（１）。～して～（２）。 ⑦　～してください（２）。～しましょう。 ⑧　～する～（修飾）。～した～（修飾）。 ⑨　ㄹ不規則変化。ㅂ不規則変化。ㄷ不規則変化 ⑩　～なので（理由）（２）。～だろう（推測）（１）。 ⑪　～であるが、～だけれど。～だろう、～のようだ（推測）（２）。 ⑫　ㅎ不規則変化。～ですね（２）。 ⑬　～できない（１）。～ならば。 ⑭　～できる、～できない（２） ⑮　復習 ⑯　テスト		
予復習等	【予習】次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。 【復習】毎回授業の復習に努めること。		
評価方法	テスト５０％、出席状況および授業態度５０％。（授業回数の３分の１をこえて欠席した場合は評価の対象にならない）		
履修条件	「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」、「韓国語（文法・読解Ⅰ）」の単位を修得していること。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」で使用した教科書。		

科目名	韓国語（会話Ⅱ） Korean （ConversationⅡ）	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年後期）	科目区分	演習
担当者	川上　新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	韓国語（文法・読解Ⅰ・Ⅱ）」、「韓国語（会話Ⅰ）」の学習の上に、韓国語の基本的な文法事項のさらなる習得と、韓国語による基本的な表現がさらに理解できるようになることを目指す。具体的には、学生が韓国語の基本的な表現をさらに覚え、自ら発話することができ、また他者が発話した文章を正確に聞き取り、書き取ることができるようになることを目標とする。自ら韓国語を正確に発話できるかが評価の対象になる。		
授業概要	【担当者の実務経験：在外公館で翻訳、通訳の経験あり】配布するプリントの学習内容にしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。受講者には韓国語で発話してもらったり、質問に答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。これまで学んだ文法事項をできるだけ使って発話に挑戦することを期待する。		
授業計画	① -는대 , -ㄴ/은데, -인데 ～だけど、～なので ② -는 것 같다, -ㄴ 것 걷다, 推測 ③ ㅎ不規則変化 ④ -지 못 하다 , 못 - ～できません ⑤ -면 ～ならば, -ㄹ/을 수 있다 ～できる、-ㄹ/을 수 없다 ～できない ⑥ 그러면それならば,-지 맙사다～するのはやめましょう,-지 마십시오～しないでくださ ⑦ -지 만 ～ですが, 否定疑問文 ⑧ -려고 합니다,～しようと思う, -ㄹ/을 때 ～するとき ⑨ -ㄴ/은 후에 ～した後に, 한테서, 에서 , (으)로 부터 ～から（人、場所） ⑩ -고 있다 , -고 계시다 ～しています ⑪ -(으)러 가다/오다 ～しに行く/来る、-기 전에 ～する前に ⑫ -마다 ～ごとに、～のたびに, -아/어/여 보다 ～してみる ⑬ -았.었/였으면 하다 ～ならばと思う, -아/어/여 자다 ～になる（変化） ⑭ -나/-이나 ～でも、～か（選択、提案）, -기로 하다 ～することにする ⑮ -는 동안 ～する間 ⑯ テスト		
予復習等	【予習】次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。 【復習】毎回授業の復習に努めること。		
評価方法	テスト50%、出席状況および授業態度50%		
履修条件	「韓国語（文法・読解Ⅰ・Ⅱ）」、「韓国語（会話Ⅰ）」の単位を修得していること。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」で使用した教科書。		

科目名	韓国語（文法・読解Ⅰ） Korean （Grammar and Reading Ⅰ）	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（１年後期）	科目区分	演習
担当者	川上　新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「韓国語（入門Ⅰ）」の学習の上に、韓国語の基本的な文法事項を習得し、韓国語の基本的な表現が理解できるようになることを目指す。具体的には、学生が韓国語の基本的な文法事項を習得し、基本的な読解ができるようになることを目標とする。授業で学んだ文法事項を習得しているか、授業やテストで示された文章が読み取れるかが評価の対象になる。		
授業概要	【担当者の実務経験：在外公館で翻訳、通訳の経験あり。】配布するプリントの学習内容にしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。韓国語は漢字語も多く、文法も日本語と似ている点があるため、日本人が韓国語を書いたり話したりすると、日本語式韓国語になりやすいので、韓国語での表現を身につけるようにする。受講者には発話してもらったり、質問に答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。		
授業計画	① ～です。～ではありません。 ② あります。います。ありません。いません。 ③ ～します。～しますか。 ④ ～ですか。 ⑤ 何ですか。 ⑥ いかがですか。 ⑦ ～なさいます。～してください。～しましょう。 ⑧ ～を～します。 ⑨ どこに行きますか。 ⑩ 時間 ⑪ 何が好きですか。 ⑫ 数 ⑬ ～しましょうか。～でしょう。 ⑭ 過去形 ⑮ 不規則変化（１） ⑯ テスト		
予復習等	【予習】次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。 【復習】毎回授業の復習に努めること。		
評価方法	テスト50%、出席状況および授業態度50%。		
履修条件	「韓国語（入門Ⅰ）」の単位を修得していること。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	「韓国語（入門Ⅰ）」で使用した教科書。		

科目名	韓国語（文法・読解Ⅱ） Korean （Grammar and Reading Ⅱ）	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（2年前期）	科目区分	演習
担当者	川上　新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」、「韓国語（文法・読解Ⅰ）」の学習の上に、韓国語の基本的な文法事項をさらに習得し、韓国語の基本的な表現がさらに理解できるようになることを目指す。具体的には、学生が韓国語の基本的な文法事項を習得し、基本的な読解ができるようになることを目標とする。授業で学んだ文法事項を習得しているか、授業やテストで示された文章が読み取れるかが評価の対象になる。		
授業概要	【担当者の実務経験：在外公館で翻訳、通訳の経験あり。】配布するプリントの学習内容にしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。韓国語は漢字語も多く、文法も日本語と似ている点があるため、日本人が韓国語を書いたり話したりすると、日本語式韓国語になりやすいので、韓国語での表現を身につけるようにする。受講者には発話してもらったり、質問に答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。		
授業計画	① ～から～まで。～だけれども。～しないでください。 ② ～で（場所、手段） ③ ㅂ不規則変化、ㄹ不規則変化、理由(으)니까 ④ ～に（誰に）、～ですね。 ⑤ 名詞を修飾する形 ⑥ ㄷ不規則変化、理由아서 ⑦ 理由기 때문에 ⑧ 文章の接続 ⑨ 推測、推量　～のようです、～でしょう ⑩ ～ならば、 ⑪ ～できる、～できない ⑫ 文末表現（１） ⑬ 文末表現（２） ⑭ 不規則変化・復習（１） ⑮ 不規則変化・復習（２） ⑯ テスト		
予復習等	【予習】次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。 【復習】毎回授業の復習に努めること。		
評価方法	テスト５０％、出席状況および授業態度５０％。(授業回数の３分の１をこえて欠席した場合は評価の対象とならない)		
履修条件	「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」、「韓国語（文法・読解Ⅰ）」の単位を履修していること。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	「韓国語（入門Ⅰ・Ⅱ）」で使用した教科書。		

科目名	情報科学概論 Introduction to Information Science	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（１年後期）	科目区分	講義
担当者	松浦　康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	現代社会では、コンピュータやスマートフォンといった情報機器は生活に欠かせないものになっている。また、近年では「機械学習」と呼ばれる分析技術の進化に伴い、人工知能(AI)やデータサイエンス(DS)が急速な発展をしており、これらの知識は今後欠かせないものになっていく。そこで、本講義では、コンピュータの原理から始まり、実際に身の周りで使われているAIやDSの応用技術について理解する。これによって、今後必要となってくる情報科学に関する基礎知識を身に着けることを目標とする。		
授業概要	本講義では最初に、基本的なコンピュータの仕組みやシステム、ネットワークについて学習する。次に、近年急速に発展したAIやDSなどについて、国内外の科学技術政策や最新の研究結果などを交えながら学んでいく。その中で、AIや科学技術の発展に伴い、今後起こり得る社会的な問題とAIの未来についても発表や議論をしていく。科学技術の進歩といった利点だけではなく、それによって生じた欠点や課題についても学ぶ。これらの知識を得るとともに、多様な意見を聞き、自らも考えることで、思考力・判断力を身に着けていく。		
授業計画	① ガイダンス ② ハードウェアとソフトウェア (1) ③ ハードウェアとソフトウェア (2) ④ ネットワークとセキュリティ ⑤ まとめ（前半） ⑥ 国内外の科学技術政策 ⑦ DS(1) なぜDSなのか ⑧ DS(2) データ分析の重要性 ⑨ 科学技術の進歩と働き方、グループ発表準備 ⑩ グループ発表 ⑪ 海外における情報科学技術事情 ⑫ AI(1) AIとは何か ⑬ AI(2) AIがもたらす未来 ⑭ AI(3) 技術革新と人間の未来 ⑮ まとめ ⑯		
予復習等	【予習】ニュースや新聞などで、情報科学を中心に世の中の動きについて、チェックする。 【復習】学んだ内容について再度プリントをよく読む。		
評価方法	平常点１５％、課題・授業内試験８５％		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし。		

科目名	認知情報処理 Cognitive Information Processing	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（１年後期）	科目区分	講義
担当者	松浦　康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	近年、立体映像（3D映像）視聴技術の向上に伴い、立体映像視聴が一般的になりつつある。特に、仮想現実(VR, AR, MR)は年々進化し続けているといっても過言ではない。また、「仮想現実が脳に与える影響」や「脳と心の関係」も話題になっている。 本講義では、今後生活に役立つ「生体における認知科学」「脳の特性（情報処理）」や、仮想現実の歴史やその特性・諸問題について学ぶ。これによって、認知の仕組みを説明できることを目的とする。		
授業概要	仮想現実(VR, AR, MR)および、それに関する周辺領域（生体情報処理、認知科学、生理心理学）について、学ぶ。また、「仮想現実が人間に与える影響」や「脳と心の関係」、「学習効果」などについて、最新の研究結果などを交えながら学んでいく。さらに、「未来の科学技術・利用方法」について、講義で学んだ内容や最新のニュースを基に、議論・グループ発表をする。なお、講義内容の一部や議論のテーマについては、受講者の興味や社会情勢、最新の研究結果などを踏まえ、変えることがあり得る。		
授業計画	① ガイダンス、生体情報処理 ② 仮想現実（VR, AR, MR）に関する概説 ③ 立体映像をみる視覚と脳のしくみ ④ 脳内情報伝達 ⑤ 認知脳科学 ⑥ 未来の科学技術・利用方法、グループ発表準備 ⑦ まとめ ⑧ グループ発表 ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯		
予復習等	【予習】次週の内容について自主的に調べておく。 【復習】学んだ内容について再度プリントを読み、授業内容の要点を再確認する。		
評価方法	平常点１０％、授業内試験・課題９０％		
履修条件	なし		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし。		

科目名	情報処理演習Ⅱ（応用） Computer Skills Ⅱ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年前期）	科目区分	演習
担当者	金子　美博	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	学生が社会で活躍するため，より実用的な文書の作成方法，ホームページ作成による情報発信方法などを学び，実践的な能力を身につけ，卒業後の進路に役立つ資格取得を目的とする．専門教育科目の「情報・言語コミュニケーション科目」の分野で「情報処理演習Ⅱ（応用）」を学ぶことによって，学生が社会ですぐに活用できるような，より実践的な方法（実用的な文書の作成，高度なホームページの作成，Excelによる事務の効率化の方法）を身につけることを到達目標とする．		
授業概要	1年後期の情報処理演習Ⅰ（表現）で学習したことを基礎にした実用的な文書作成（文書デザイン）やホームページ作成について学ぶ．また，表計算ソフト（Excel）を使った財務関数など事務の効率化について知る．特に文部科学省後援の日本情報処理検定協会が主催する文書デザイン１級・２級レベル，ホームページ作成１・２級レベルの資格取得を意識し，基礎的な設定から高度な設定までを順を追って解説する．		
授業計画	① Wordの実践的な活用（表，図形の作成） ② 文書デザイン基礎（１）（表，図形の作成） ③ 文書デザイン基礎（２）（表，図形の作成） ④ 文書デザイン応用（１）（拡張書式，図形の組み合わせ） ⑤ 文書デザイン応用（２）（拡張書式，図形の組み合わせ） ⑥ ホームページ作成（１）（タグ入力） ⑦ ホームページ作成ソフトによる作成（２）（スタイルシートの利用） ⑧ ホームページ作成ソフトによる作成（３）（表，画像，ハイパーリンク） ⑨ ホームページ作成ソフトによる作成（４）（イメージマップの作成） ⑩ ホームページ作成ソフトによる作成（５）（フォームの作成（１）） ⑪ ホームページ作成ソフトによる作成（６）（フォームの作成（２）） ⑫ ホームページ作成ソフトによる作成（７）（サムネイル画像の挿入） ⑬ ホームページ作成ソフトによる作成（８）（JavaScriptの挿入） ⑭ Excelの実践的な活用（財務関数の利用（１）） ⑮ Excelの実践的な活用（財務関数の利用（２）） ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】前回の講義の最後に指示．その内容に従って本やネットなどで調べておく． 【復習】配布資料を読み，授業で作成したデータを再度自分で作成する．		
評価方法	出席状況・授業での取組姿勢・レポート５０％，定期試験５０％		
履修条件	なし		
教科書	未定		
参考書	未定		

科目名	情報処理演習Ⅲ（発展） Computer Skills Ⅲ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年後期）	科目区分	演習
担当者	松浦　康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	現代社会は、デジタル・トランスフォーメーションによる大転換が起きている。その転換の原動力として、人工知能（AI）やデータサイエンス(DS)がある。AIやDSでは、統計学や情報工学などの技法を駆使し、データの整理・構造化を行っている。本演習では、理論と演習を通じて、これらの基礎知識を習得することを目的とする。また、情報分析と情報処理に関する演習を行い、知識の定着を図る。		
授業概要	本演習では、最初に、DSの概論（専門用語の説明、統計学など）について学習する。その後、データ収集と収集したデータの分析を行う。実験的な演習を通じて、学んだ知識の定着を行う。その後、課題を課すので、課題についての評価・分析を適宜行う。これによって、情報分析力と情報処理技術を身に着ける。なお、受講者の興味・関心や社会情勢の変化などを踏まえて、演習内容の一部変更を行う可能性もある。		
授業計画	① ガイダンス、データベースの概要 ② DSの重要性・必然性 ③ データが変える社会 ④ 諸外国におけるテクノロジー ⑤ データ処理の基礎 ⑥ データ収集 ⑦ データ入力 ⑧ 統計処理 ⑨ 各種統計 ⑩ まとめ（前半） ⑪ 情報分析① ⑫ 情報分析② ⑬ 情報処理① ⑭ 情報処理② ⑮ まとめ ⑯		
予復習等	【予習】事前に提示した配布資料を読むこと。 【復習】学んだ内容について再度プリントをよく読む。		
評価方法	平常点１５％、授業内試験・課題８５％		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし。		

科目名	日本語表現法Ⅰ Japanese Composition Ⅰ	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（１年前期）	科目区分	演習
担当者	村中　菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本語を世界の一言語としてとらえ、その性質を客観的に見ることで、読み手に伝わりやすい書きことばの表現はどのようなものかを自分で考えられ、作文に応用できるようになることを目的とする。さまざまな種類の文章に触れることにより、その目的は何か、目的に応じて求められる内容は何かを的確に判断し、文章を書くそれぞれの場面に応じて適切な表現を選択できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	ことばの4機能である「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」のうち、本講義では「書く」ことを中心に扱う。まず日本語の特質を客観的にとらえることから始め、それを念頭に、内容を読み手に適切に伝えるための語句の選択、自然な語順、待遇表現と敬語、文章のさまざまな型を学んでいく。テキスト各節の練習問題および付録のワークブックを用いながら、実用的な文章として案内文や手紙文を書く作業や、文章の要点をとらえてまとめる練習も取り入れながら進める。課題レポートを作成するためのポイントやタイトルの付け方、内容の組み立て方も実践的に学ぶ。		
授業計画	① ガイダンス、日本語の書きことばの特質（１） ② 日本語の書きことばの特質（２） ③ 日本語の書きことばの特質（３） ④ 語句の選択、自然な語順、表記についての基礎知識 ⑤ 待遇表現と敬語、敬語の種類について（１） ⑥ 待遇表現と敬語、敬語の種類について（２） ⑦ 婉曲語・改まり語・美化語・丁重語、文章を書く前の留意点 ⑧ 文章の種類と型から、求められる内容について考える ⑨ サンプルを参考に案内文を作成する ⑩ 手紙文の構造研究、サンプルを参考に手紙文を作成する（１） ⑪ サンプルを参考に手紙文を作成する（２）・発表 ⑫ 文章を読んで要点を捉える（１） ⑬ 文章を読んで要点を捉える（２） ⑭ レポートの条件、レポートの構造を知る、全体の構想を練る ⑮ レポートに題目を付ける、レポートをまとめる ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】あらかじめテキストに目を通し、漢字の読みなどを調べておくこと 【復習】その日に学んだテキスト、ワークブック、プリント等を見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度４０％、課題・発表への取り組み２０％、定期試験４０％		
履修条件	なし		
教科書	『日本語表現法Ⅰ　付ワークブック改訂版』／著：沖森卓也・半沢幹一／出版：三省堂		
参考書	適宜プリントを配布する		

科目名	日本語表現法Ⅱ Japanese Composition Ⅱ	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（１年後期）	科目区分	演習
担当者	村中　菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	コミュニケーションにおけることばの重要性を再認識し、場面や相手に応じて適切なことば遣いの選択ができるようになること、話し手の気持ちをくみ取った話の聞き方、相づちの打ち方などができるようになることを目的とする。特に適切な敬語の使い方を中心に、丁寧語・改まり語などを実践的に学ぶことで、実生活で自分の置かれた場面や相手の立場に応じて自然にこれを活用できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	ことばの4機能である「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」のうち、本講義では「話す」・「聞く」ことを中心に扱う。特に社会人として必須の敬語の習得に力を入れ、ロールプレイなど実践的な学習方法を取り入れ、自然に適切なことば遣いが身につくようにする。更に、緊張した場面に身を置いた際にも、自分の言いたいことを的確に伝えられるよう、話の構成技術も習得する。人前で話すことが苦手な方も自身がつき、より積極的になれるよう指導する。また「聞く」ことは「話す」以上に重要であるため、技術だけでなく、話し手の内面を思いやる表現方法についても学ぶ。		
授業計画	① ガイダンス、コミュニケーション能力の確認 ② コミュニケーションの中のことばの重要性を再認識する ③ あいさつの目的とは、第二のあいさつ・気配りワードを用いた発話作り ④ ロールプレイ（１）初対面の相手との話題作り ⑤ 美しい発音・発声、語尾・話しぐせを意識する ⑥ 発話内容を簡潔にまとめ、明確に伝える ⑦ 敬語はなぜ必要か、敬語の種類の復習 ⑧ 敬語のロールプレイ（１）準備 ⑨ 敬語のロールプレイ（２）準備 ⑩ 敬語のロールプレイ（３）発表および講評 ⑪ 話の構成技術を学ぶ（１） ⑫ 話の構成技術を学ぶ（２） ⑬ 話の構成技術を学ぶ（３）成果発表 ⑭ 効果的な話の聞き方（１） ⑮ 効果的な話の聞き方（２） ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】あらかじめテキストに目を通し、漢字の読みなどを調べておくこと。 【復習】その日に学んだテキスト、ワークブック、プリント等を見直しておくこと。		
評価方法	出席状況・受講態度４０％、課題・発表への取り組み２０％、定期試験４０％		
履修条件	なし		
教科書	『コミュニケーション技法』／編著：プレゼンテーション学研究会／出版：ウィネット		
参考書	適宜プリントを配布する		

科目名	多文化共生論 Multicultural Society	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（１年前期）	科目区分	講義
担当者	王　武云	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本講義の目的は、「多文化共生」をめぐる様々な争点について、事例を用いて多角的に検討し、異文化理解のための基本的視座と方法を学ぶことである。具体的には、多文化共生に関する様々な言論ならびに文化の状況を紹介し、多様な文化的背景を持った人々が相互交流するに際して、何がどのように問題化し、解決や妥協が目指されてきたかを、実例をあげて検討する。また日本との比較を適宜試みることで、受講者は文化の多様性や異文化交流の意義を理解する。		
授業概要	多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」（総務省：多文化共生の推進に関する研究会報告書より）である。これを理解するため、まず、英語圏の文化的多様性を踏まえた異文化コミュニケーションの現状ならびに課題を考察する。次に、日本をはじめ、アジアにおける多文化共生の現状及び必要性を検討する。授業で学んだ視座と方法を、様々な文化的事象に適用して考察し、多文化共生に対する自分の考え方を発表してもらう。在日外国人を招いて討議を行う予定する。毎回の講義後にはコメント票を配り、質問や意見などを聴取しつつ、授業に関する受講者の理解度を確認する。		
授業計画	① イントロダクション ② 多文化共生とは？ ③ アメリカにおける多文化共生① ④ アメリカにおける多文化共生② ⑤ アメリカにおける多文化共生③ ⑥ ヨーロッパにおける多文化共生① ⑦ ヨーロッパにおける多文化共生② ⑧ ヨーロッパにおける多文化共生③ ⑨ アジアにおける多文化共生① ⑩ アジアにおける多文化共生② ⑪ アジアにおける多文化共生③ ⑫ 在日外国人を招いて討議 ⑬ グループ発表① ⑭ グループ発表② ⑮ グループ発表③ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】講義内で配る資料の内容について予習をすること 【復習】講義の内容を理解した上で、関連するテーマについて参考書等で調べること		
評価方法	出席状況・授業態度２０％、定期試験８０％		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	講義内で随時指示する。		

科目名	国際経済論 International Economics	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年前期）	科目区分	講義
担当者	松葉　敬文	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	国際社会における経済の状況を理解し、国際経済関係に対する基礎的理解の修得を目指すことにより、国際社会の経済問題について自ら考えることができるようにする。特に教育と社会資本整備の重要性を学びつつ、国際社会における女性の実情を知り、自身が国際社会に参加する意義を学習する。これによりグローバル社会の一員として、自らに与えられている選択肢を考え、国際社会の課題に対処できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	地球規模で経済が繋がるようになり、グローバリゼーションという言葉は日常に深く根差すようになった。また日欧EPAやTPP11、そして東南アジア・東アジア・豪・NZを包括する連携協定（RCEP）など国際取引を促進させる協定が次々に締結され、国際的な物流の変化は日常生活の中でも大きな影響を与えている。しかし、イギリスのEU離脱（ブレグジット）に代表されるように、近年では急速な自由化に懸念を抱く考え方も表面化してきた。そして何よりも、人々が享受する豊かさは国際的に大きな偏りがある。本講義では、様々な国について考えながら、国際的な経済の繋がりと豊かさについて考えるものとする。		
授業計画	① はじめに―オリエンテーション ② 貿易利益(1)―国際分業 ③ 貿易利益(2) ―比較優位の考え方 ④ 私達の生活水準―先進国と絶対的貧困 ⑤ 豊かさの捉え方(1)―GDPの基礎概念 ⑥ 豊かさの捉え方(2)―HDIとHAI ⑦ 経済成長と女性の力 ⑧ 経済的脆弱性―EVI ⑨ 様々な途上国(1)―後発開発途上国 ⑩ 様々な途上国(2)―小島嶼開発途上国 ⑪ 様々な途上国(3)―内陸開発途上国 ⑫ 貿易と産業構造 ⑬ 保護貿易の功罪 ⑭ FTA・EPAとグローバリゼーション ⑮ グローバリゼーションの光と影 ⑯ 定期試験―記述式		
予復習等	【予習】諸種の情報媒体を利用し、直近の経済事情に興味を持ち、背景を調査すること。 【復習】呈示したスライドや配布資料における疑問点について調べ、理解を深めること。		
評価方法	出席状況・受講態度３０％、定期試験７０％		
履修条件	各回のテーマに興味を持ち講義に臨む。「生活と経済」を受講していることが望ましい。		
教科書	書籍は指定せず、適宜資料を配付する。		
参考書	適宜、適宜紹介するが、購入を必要とするものではない。		

科目名	人間関係論 Human Relationships	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（１年・２年前期）	科目区分	講義
担当者	宮本　邦雄	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	人間関係の諸相が時間（発達）と空間（生態環境）の２次元から整理できること、そして、子ども・青年、成人、高齢者の３世代について、家族、地域、学校、職場、公的空間において展開する人間関係と心の健康を理解できるようになることを目的とする。夫婦関係や親子関係、地域での子育て、教師と児童・生徒関係、学級集団、友人関係、上司－部下関係、生涯学習、集合行動・群衆、マスメディア、異文化、インターネットと人間関係、対人関係の不適応について考察を深めることを到達目標とする。		
授業概要	人間関係の諸相を時間（発達）と空間（生態環境）の２次元によって、子ども・青年、成人、老年の３段階、近接環境、中間環境、外部環境の３レベルを構成し、それぞれの枠組みで人間関係を考察する。すなわち、家族、地域、学校、職場、公的空間における人間関係を分析・解説する。さらに、夫婦関係や親子関係、地域での子育て、教師と児童・生徒関係、学級集団、友人関係、上司－部下関係、生涯学習、集合行動・群衆、マスメディア、異文化、インターネットと人間関係、対人関係の不適応を取り上げる。 講義はワークシートを用いて進める。講義のテーマについて、適宜、自己の体験や人間関係についての質疑応答を行い、小レポートの作成を求め、そのフィードバックを行う。		
授業計画	① 人間行動と社会の枠組み　レポートの書き方 ② 結婚と夫婦関係 ③ 親子関係と子どもの発達 ④ 家族システムと人間関係 ⑤ 地域社会と人間関係 ⑥ 学校の人間関係（１）、学級集団と友人関係. ⑦ 学校の人間関係（２）、教師と児童・生徒、教師集団 ⑧ 職場の人間関係（１）、職業集団とコミュニケーション ⑨ 職場の人間関係（２）、リーダーシップ ⑩ 生涯学習とボランティアの人間関係 ⑪ 群集行動と集合行動 ⑫ マスメディアと人間関係 ⑬ 異文化間の人間関係 ⑭ インターネットと人間関係 ⑮ 対人関係の不適応 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】講義のテーマについて、新聞やＴＶ、インターネット等で情報を収集すること。 【復習】授業終了時に示す課題について、次回の授業までに小レポートを作成すること。		
評価方法	定期試験70%、小レポート30%		
履修条件	特にない		
教科書	指定しない		
参考書	齋藤勇「イラストレート人間関係の心理学」誠信書房、吉森護「人間関係の心理学ハンディブック」北大路書房、吉田俊和他「対人関係の社会心理		

科目名	観光論 Tourism	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（２年前期）	科目区分	講義
担当者	早川　秀昭	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	「観光（旅）」と社会生活や産業活動との関係を考察し、その経済的役割についての理解を深め、社会における意義を旅行産業の視点から考える。「観光」の間口は広い。その「学びの間口の広さ」から、観光を学ぶことを通して問題発見能力ー「何が必要か」「何が問題か」、そして問題解決能力ー「そのために何をすべきか」「どのようにすれば解決できるか」を創造的に考える力を養い、身に着けることの大切さを理解させる。		
授業概要	「21世紀は観光の時代である」といわれるが、人間が人間らしく生き、人生を充実させていくうえで「観光（旅）」は不可欠である。「観光（旅）」に関わる基本的な事柄を踏まえ、観光ビジネスの特性と、観光ビジネス分野で起きていることや今後の展望について学んでいく。また地域に関して、地域がなぜ「観光振興」に熱心取り組むのか、観光消費の産業関連（地域波及）の流れと、観光と地域振興、観光とまちづくりとの関わりにも焦点を当てていく。「観光（旅）」と密接に結びついている歴史・文化の観点も加味しながら、「観光（旅）」の持つ楽しさも同時に学んでいく。 担当者の実務経験：旅行会社にてカウンターセールス、外回り営業、添乗業務および財務担当として決算業務の経験あり。		
授業計画	① オリエンテーションー観光を学ぶ意義と観光の様々な効果 ② 観光にかかわる言葉 ③ 観光のしくみ ④ 観光資源と観光対象 ⑤ 観光産業の構成と特徴 ⑥ 様々な観光ビジネスー旅行業 ⑦ 様々な観光ビジネスー宿泊産業 ⑧ 様々な観光ビジネスー交通運輸業 ⑨ 様々な観光ビジネスーテーマパーク、スキー場、展示鑑賞施設、土産品業 ⑩ 観光と情報 ⑪ 観光政策と観光行政 ⑫ 観光のマーケティング ⑬ 旅の歴史とこれからの旅行 ⑭ 観光と国際経済・社会・文化ーインバウンドと異文化理解 ⑮ まとめーオーバーツーリズムとユニバーサルツーリズム ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】教科書の授業に該当するところをよく読んでおくこと。 【復習】授業で学んだことをふまえ、実際に「旅」に出て、自分の目で観光がどのように地域経済にかかわっているのか、人間形成にどんな影響を与えているのかを考えてみる。		
評価方法	筆記試験（90%）に出席状況等（10%）を加味して評価する。		
履修条件	なし		
教科書	『観光学基礎　観光に関する14章』/　出版：株式会社ＪＴＢ総合研究所		
参考書	なし		

科目名	ホテル論 Hotel Management	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際文化学科（１年後期）	科目区分	講義
担当者	豊田　哲雄	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	ホテルは最高の常識であるといわれます。その社会的に必ずや必要となるマナーやホテルの接客力を学び、多種多様な実務経験からおもてなしの心をお伝えし、身に付けていただき、将来社会人になった折に、いろんな場面でコミュニケーション力や協調性を発揮できる人材に育てること（社会の礎になれる人材の育成）を到達目標とする。また、個々人のオリジナリティを大切にしなければならないことを強調しながら教育を実行し、ユニバーサル社会にも対応できる人間にすることも到達目標である。		
授業概要	【担当者の実務経験：ホテルにて料飲サービス・予約・販売・フロント・ブライダル・ディナーショー誘致業務に従事し、現在は総支配人。現場での経験を活かした授業を実施します】 　時代の変化がホテルを変える、またホテルとして変えてはならない普遍的ホテルサービスがある。現代から未来を予測し、今、行われているホテルの基本・実務サービスの現状と対策を伝えつつ、社会におけるホテルの価値観を講義の中で考えていただけるものにしてゆきます。		
授業計画	① はじめに ② ホテルの歴史 ③ ホテルの特性と組織 ④ ホテルマンシップ ⑤ 宿泊編（１）（フロント） ⑥ 宿泊編（２）（客室） ⑦ 料飲編（１）（宴会） ⑧ 料飲編（２）（レストラン） ⑨ ブライダル編 ⑩ セールスプロモーションとマーケティング ⑪ 予約業務編 ⑫ 企画と各セクションの連携 ⑬ 管理部門の業務と機能 ⑭ 地域とホテル、その将来像 ⑮ レポート作成方 ⑯ レポート提出について		
予復習等	【予習】新聞　ＴＶ＆webニュース　広告媒体から時事の変化を毎日記録しておくこと。 【復習】配布レジュメの見直しと授業中に強調したキーワードからホテルを学ぶこと。		
評価方法	出席状況・授業態度　評価率70%　　レポート提出（必須）評価率30%		
履修条件	学修規定による。　　真摯な態度で授業に臨み、私語は厳禁である。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし。		

科目名	専門演習 Seminar	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（２年前期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	
授業目的 到達目標	専門演習に関連したテーマについて、各担当教員の指導のもと研究に関する知識を身につける。学生自らが文献調査を行い、問題を発見し、分析・解析していく能力を養う。また、口頭発表の仕方、論文・レポートの書き方を学ぶ。ただし、情報系の専門演習では、論文・レポートは書かず、プログラミングについて学ぶ。さらに、卒業研究に向けての動機付けを行う。		
授業概要	ゼミは、1年後期に実施されるゼミ説明会を参考に、自分の研究分野と指導教員を決める。ゼミ配属が決定した後、各担当教員の指導に従い、テーマを設定して、調査・研究を行い、その成果を口頭発表し、レポートにまとめていく。授業の中で卒業研究のテーマを絞り込んでいく。		
授業計画	①　（文化・文学）文献購読（１）　（情報）プログラムの基本と実行（１） ②　（文化・文学）文献購読（２）　（情報）プログラムの基本と実行（２） ③　（文化・文学）文献購読（３）　（情報）プログラムの基本と実行（３） ④　（文化・文学）文献購読（４）　（情報）プログラムの基本と実行（４） ⑤　（文化・文学）文献購読（５）　（情報）プログラムの基本と実行（５） ⑥　（文化・文学）文献・調査研究（１）　（情報）テキストによるプログラム学習（１） ⑦　（文化・文学）文献・調査研究（２）　（情報）テキストによるプログラム学習（２） ⑧　（文化・文学）文献・調査研究（３）　（情報）テキストによるプログラム学習（３） ⑨　（文化・文学）文献・調査研究（４）　（情報）テキストによるプログラム学習（４） ⑩　（文化・文学）文献・調査研究（５）　（情報）テキストによるプログラム学習（５） ⑪　（文化・文学）卒論主題設定（１）　（情報）テキストによるプログラム学習（６） ⑫　（文化・文学）卒論主題設定（２）　（情報）テキストによるプログラム学習（７） ⑬　（文化・文学）卒論中間報告（１）　（情報）テキストによるプログラム学習（８） ⑭　（文化・文学）卒論中間報告（２）　（情報）テキストによるプログラム学習（９） ⑮　（文化・文学）卒論中間報告（３）　（情報）プログラム課題（１） ⑯　（文化・文学）卒論中間報告（４）　（情報）プログラム課題（２）		
予復習等	【予習】予習の内容については各担当教員が授業の中で提示する。 【復習】毎回各担当教員が提示する内容について復習すること。		
評価方法	初回の授業で各担当教員が提示する。		
履修条件	２年に進級する必要な合計単位数が取得できること。		
教科書	各担当教員が授業の中で提示する		
参考書	各担当教員が授業の中で提示する		

科目名	卒業研究 Graduation Thesis/Graduation Works	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際文化学科（２年後期）	科目区分	演習
担当者	各担当教員	教員区分	
授業目的 到達目標	各指導教員による指導のもと、自ら問題意識を持って、各自が関心をもつテーマを研究し、卒業論文または卒業作品を作成する。これによって、問題解決力や計画遂行力、分析力を身に着ける。		
授業概要	各担当教員による指導のもと、独自の研究テーマ・研究計画を立て、これに基づいて調査研究を進めていく。そして、その成果を卒業論文または卒業作品としてまとめ、各担当教官のもとで卒業論文または卒業研究発表会を開催する。最後に、各ゼミの担当者によるゼミ発表会を行う。		
授業計画	①　（文化・文学）文献購読（１）　（情報）テーマの決定 ②　（文化・文学）文献購読（２）　（情報）データ収集（１） ③　（文化・文学）文献購読（３）　（情報）データ収集（２） ④　（文化・文学）文献購読（４）　（情報）データ収集（３） ⑤　（文化・文学）文献購読（５）　（情報）データ収集（４） ⑥　（文化・文学）文献購読（６）　（情報）データ収集（５） ⑦　（文化・文学）文献・調査研究（１）　（情報）プログラム作成（１） ⑧　（文化・文学）文献・調査研究（２）　（情報）プログラム作成（２） ⑨　（文化・文学）文献・調査研究（３）　（情報）プログラム作成（３） ⑩　（文化・文学）文献・調査研究（４）　（情報）プログラム作成（４） ⑪　（文化・文学）文献・調査研究（５）　（情報）プログラム作成（５） ⑫　（文化・文学）文献・調査研究（６）　（情報）プログラム作成（６） ⑬　（文化・文学）卒論発表（１）　（情報）プレゼンテーション作成（１） ⑭　（文化・文学）卒論発表（２）　（情報）プレゼンテーション作成（２） ⑮　（文化・文学）卒論発表（３）　（情報）卒研発表 ⑯　（文化・文学）（情報）ゼミ発表会		
予復習等	【予習】予習の内容については各担当教員が授業の中で提示する。 【復習】毎回各担当教員が提示する内容について復習すること。		
評価方法	初回の授業で各担当教員が提示する。		
履修条件	前期の専門演習の単位を取得したこと。		
教科書	各担当教員が授業のなかで提示する。		
参考書	各担当教員が授業のなかで提示する。		